

計画案において特に議論いただきたい事項

1 管理のための方策に関する事項

個体群管理目標の設定

【ポイント】

- (1) ゼニガタアザラシの適正な個体群を維持するため、漁業被害の軽減とのバランスを考えた目標を設定する。
- (2) 捕獲すべき個体の検討を行う。
これまでの調査から、混獲されやすい幼獣個体ではなく、特定の亜成獣以上の個体がサケ定置網において被害を及ぼすことが明らかとなってきた。このことから、混獲を軽減し、その代わりに亜成獣以上の個体を捕獲することができれば、漁業被害の軽減に効果的であり、かつ個体群の維持も図れる。
- (3) 効果的な捕獲手法の検討を行う。
これまで、亜成獣以上の個体は混獲が少なく、捕獲手法も確立されていないため、その手法の確立が必要となる。

【管理目標案】

- ・ 「安定した個体群を維持するため、○年後の個体数が環境収容力の○%以下とならないように管理する。さらに、100年以内に絶滅する確率が10%未満となるよう維持すること。」
- ・ 「順応的管理の観点から、年間の捕獲上限は前年の生息状況評価をもとに毎年算出する。捕獲数は、その年の混獲による死亡個体数の動向を踏まえて柔軟に変更する。」
- ・ 「調査から、混獲されやすい幼獣個体ではなく、特定の亜成獣以上の個体がサケ定置網において被害を及ぼすことが明らかとなってきた。このことから、混獲による幼獣死亡個体を減らし、代わりに定置網に執着している亜成獣以上の個体を選択的に捕獲するよう努める」

2 被害防除対策に関する事項

(1) 漁網の改良

引き続き、漁業者の意見を取り入れながら、定置網への入網を阻止する手法（格子網の装着等）や定置網内でサケとアザラシを分離する手法（仕切り網の装着等）等により、被害を防除する漁網の改良をすすめる。また、改良試験の結果を地域に還元し、防除の取組みを促進する。

(2) 音波忌避装置等の改良

ゼニガタアザラシの忌避効果の高い装置を開発するとともに、より効果を発揮するための設置方法等についても検討する。

(3) 常習個体の選択的捕獲手法の確立

定置網やその周辺に来遊する個体を、選択的に捕獲する手法（定置網自体による捕獲、落とし罠による捕獲等）を確立する。

3 モニタリングに関する事項

個体群の状況、また管理の効果を検証し、管理計画にフィードバックするため、以下の項目について定期的に点検する。

- (1) 生息数及び個体群構成
ヘリセンサスや目視などによるカウント
個体群構成の把握
- (2) 混獲数
- (3) 捕獲数
- (4) 被害状況
被害範囲や被害程度の把握
食性調査（胃内容物調査等）
- (5) 生息動向
繁殖状況、行動範囲等
- (6) 生息環境
食物資源等
- (7) 存続可能性評価